

# 2025（令和7）年度シラバス作成のガイドライン

## 【経済・福祉社会・国際文化学部】

研究教育開発センター

本学においては、学生の自律的学修を促し、学生がディプロマ・ポリシー（DP）に掲げる能力等を身につける効果的な教育ができるように、以下のことを踏まえシラバス作成を行ってください。

### 1 シラバスとは

シラバスは、学生と大学及び授業担当者との基幹的なコミュニケーションツールであり、学生が履修しようとする授業科目の目的・内容・計画・成績評価方法等をあらかじめ明示しています。授業担当教員がDPを意識してシラバスを作成することで、学部・学科の教育目標と授業の到達目標との関連性が明確になり、本学が目指す人材を育成することにつながります。

### 2 シラバスの機能

- (1) 学生が授業を選択する上でのガイドとしての機能
- (2) 担当教員と受講する学生との契約書のような機能
- (3) 学生の学修効果を高めるための情報を提供する機能
- (4) 学生が授業をイメージし、モチベーションを高めるための情報を提供する機能
- (5) 授業全体をデザインする計画書としての機能
- (6) 課程・学部学科・コース等のカリキュラム全体に一貫性を持たせる機能
- (7) 授業の改善につなげる機能

「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」により、シラバスの内容をホームページ上で公開しています。つきましては、**「シラバス作成のガイドライン」を熟読し、漏れの無いように、全ての項目を記載してください。**

先生方が記載されたものは、各自、責任を持って校正していただくことを原則としますが、学部長等が内容を確認し、必要に応じて修正をお願いすることもありますのでご承知おきください。

## ～目次～

1. 使用言語	⇒ P 3
2. 授業のテーマ、授業の概要及び方法 (新規項目あり)	⇒ P 3
3. 授業の到達目標	⇒ P 4
4. 授業計画	⇒ P 5
5. 事前・事後学修等の「内容」	⇒ P 6
6. 事前・事後学修等の「時間」	⇒ P 6
7. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法	⇒ P 6
8. 使用教材など	⇒ P 7
9. 到達目標の評価方法	⇒ P 7
10. 履修上の留意事項・授業時間外の対応	⇒ P 8
11. 前年度の授業の自己評価	⇒ P 8
12. その他	⇒ P 8

## 1 使用言語 (30字以内)

授業で使用する言語を選択してください。「(6) その他」を選択した場合は、以下の(1)~(5)以外の使用言語が入力できます。

(使用言語)

- (1) 日本語で行う授業
- (2) 英語で行う授業
- (3) 日本語及び英語のバイリンガル授業
- (4) 受講者決定後に使用言語（日本語又は英語）を決定する授業
- (5) 英語以外の外国語で行う授業
- (6) その他

## 2 授業のテーマ、授業の概要及び方法

### (1) <テーマ> (200字以内)

- ① 「授業の核心あるいは全体像」を端的な言葉で記載してください。

### (2) <概要及び方法> (2000字以内)

- ① 「授業の目的」や「授業全体の流れ」を学生にわかりやすい言葉で、かつ具体的な表現で記載してください。
- ② 学科、コース等のカリキュラムの中での位置づけを記載してください。  
⇒その授業がカリキュラム全体の教育目標と整合性を持っていることを明示することで、学生に学修の意義をわかりやすく理解させることが重要です。

### ③ 授業の方法の例

「授業は板書・ICTの活用を中心とし、いくつかの〇〇の実例を紹介し、△△のDVDなども見る」

### (3) <キーワード> (200字以内)

- ① 学生が授業の概要を掴みやすいように、授業で扱うキーワードを最低1つ抜き出して記載してください。
- ② **15回(通年30回)の授業の中で1回でもアクティブ・ラーニングを実施している場合は必ず「アクティブ・ラーニング」と記載してください。**  
※アクティブ・ラーニングについては、P9に説明していますのでご参照ください。
- ③ フィールドワークや課題解決型授業を実施している場合は、「フィールドワーク」、「課題解決型授業」と記載してください。

(4) <実務経験のある教員の教育内容> ★『新規』 (200字以内)

「実務経験のある教員による授業科目」については、昨年度までは「キーワード」の中に入力をお願いしておりましたが、文部科学省より以下の改善要請がなされましたので、新たな項目として追加しました。

「実務家教員」、「実務経験あり」、「該当する」、「実務経験〇」、「〇〇教諭〇年」、「〇〇分野における実務経験のある教員の授業科目」等の記載だけではなく、実務家教員とその授業科目との関連性が学生にも分かるように記載してください。

つきましては、該当する授業科目について、「実務経験を活かし、本科目でどのような実践的な教育を行うか」記入例を参考に明確に記載してください。

実務経験を教育内容に活かしていない科目、及び実務経験がない教員の科目は「該当なし」と記載してください。

記載例

- (1)〇〇の実務経験があり、××について幅広く知識を習得している。習得した経験を活かし△△について講義を実施する。(指導を行う/教える 等)
- (2)〇〇において▲▲士として勤務した経験を活かし##について授業を行う。
- (3)小学校教員の勤務経験があり、▽▽について幅広い知識を有している。この経験を活かし※※について授業を行う。

○『オムニバス授業の場合』

- (1)A氏は、××の実務経験を活かし△△について、B氏は、××の〇〇としての経験を活かし△△を指導する。

○『インターンシップや実習等を授業の中心に位置付けている授業の場合』

- (1)〇〇に関する企業では、□□に関することを学び、△△に関する企業では、××に関することを学ぶ。(指導を仰ぐ/教える 等)

3 授業の到達目標 (1項目 100字以内)

- (1) 授業の到達目標は、15回(通年30回)の授業終了後にできるようになってもらいたい行動や状態(単位修得によって身につく力)について、学生を主語にして「〇〇〇〇できる」という形式で記載してください。

⇒学生が授業終了後には「こんなことができる」「こんなことを知ることができる」とイメージできる目標を掲げることは、学生の学修意欲を高めることに繋がればと考えています。

- (2) 観点別に、できるだけ単文で表現してください。
- (3) 到達目標は、「各到達目標に含まれる主要な観点」(A~D)を主に参考にして、(それ以外の観点を含めても可)、5項目以内でできるだけ単文で表現してください。なお、「A. 知識・技能、B. 思考・判断・表現、C. 関心・意欲・態度」の観点は、ディプロマ・ポリシー(DP)における能力であることを前提として記載してください。

## ■各到達目標に含まれる主要な観点

A. 知識・技能    B. 思考・判断・表現    C. 関心・意欲・態度    D. キャリアデザイン※

※「キャリアデザインの観点」は、先生方のこれまでの教育研究において得られた幅広い知見を基に、社会とのかかわりを学生に伝えることにより、学生の社会的・職業的自立を図る目的で設置しています。

- (1) 各到達目標が、A～Dのどの観点到該当するか、観点的欄に印を付けてください。
- (2) 「各到達目標に含まれる主要な観点」(A～D)以外に、各担当者が独自に観点を設定する場合は、E～Hの観点的( )内に記載する。独自に設定できる観点是4つまでです。 **(各15字以内)**
- (3) 各到達目標に含まれるA～Hの観点是、1つでも複数でも結構です。
- (4) 設定する5つ以内の到達目標に、A～Hの観点を全て含める必要はありません。

## 4 授業計画 ※重要 (2,000字以内)

- (1) 「授業のテーマ」「概要」「到達目標」に対応させて計画を立ててください。
  - (2) 第1回～15回までの各回の授業内容・計画を各々記載してください。
  - (3) 単位の修得には、半期15回の受講が必要です。第1回～第15回の中に「試験」のみを扱う回を含めることはできません。第15回までに試験を行う場合は、次の例を参考に記載してください。  
(例：「試験及び解説」)
  - (4) 通年科目(4単位科目)及びペア科目(週2コマ)については、30回分を記載してください。
- ⇒①授業形態によって15回の計画が記載できない場合でも、できるだけ細かな計画を立て、**「第1回～第15回 ○○○」という大雑把な表記は避けてください。**
- ②同様のテーマを複数回にわたって取り扱う場合は、①、②のように数字のみで区分するのではなく、扱うテーマのキーワードを記載して各回の違いを明確にしてください。
  - ③オムニバス形式(リレー方式)の授業は、原則、各回の全ての担当者名を括弧書きでご記入ください。
  - ④授業アンケートで「シラバスの授業計画と違う」といった意見が寄せられていますので、ご注意ください。

### ❖お願い❖

- (1) アクティブ・ラーニングについて  
グループ・ワークやフィールドワーク、活発な意見交換などにより、教員と学生が一体となって授業を作り上げる**アクティブ・ラーニングを、可能なかぎり全ての授業の中で取り入れていただきますよう**お願いします。
- 15回(通年30回)の授業の中で1回でも取り入れる場合は、「2 授業のテーマ、授業の概要及び方法」の<キーワード>欄に「アクティブ・ラーニング」と記載してください。**  
※アクティブ・ラーニングについては、P9に説明していますのでご参照ください。
- (2) フィールドワークについて  
フィールドワークの実施を予定している場合は、その活動場所や活動内容が決まっていたら記載してください。
- (3) ICTを活用した双方向型授業について  
ICTを活用した双方向型授業の実施を予定している場合は、活用する端末(クリッカー、タブレット等)や実施内容を記載してください。

## 5 事前・事後学修等の「内容」(1,000字以内)

(1) 授業の事前準備や授業後の学修について、学修の内容を箇条書きで具体的に記載してください。

例)：「授業前には、次回授業時の全文を英訳していること」、「授業前には、当該授業部分の教科書を読んでおくこと」、「毎授業後には当日の概要・ポイント等をまとめ、レポートを提出すること」、「授業のはじめに前回の授業内容に関する小テストを実施するので復習しておくこと」、「実習のまとめと考察をすること」などです。単に「テキストの予習」等は不可です。

## 6 事前・事後学修等の「時間」

(1) 本学学則に1単位の修得に必要な学修時間は45時間(講義の場合は受講15時間と予習・復習に30時間)となっており、2単位の場合、授業前後に必ず合計で4時間程度の準備学修(予習・復習)を行う必要があります。

(2) 授業の事前準備や授業後の学修時間について、例のとおり記載してください。

例)：2単位の場合→4時間、1単位の場合[授業を8回(16時間)]→4時間  
1単位の場合[授業を15回(30時間)]→1時間

### 【参考】本学学則

第12条 各授業科目の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で行われる授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で行われる授業をもって1単位とする。また、芸術等の分野における個人指導による実技等については、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

(注：90分の授業時間を2時間とみなします。)

(3) 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業演奏、卒業作品等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

### ❖お願い❖

ICTを活用した自主学习支援について

ICTを活用した自主学习支援の実施を予定している場合は、学習支援の内容が分かるよう具体的に記載してください。なお、その際は、学生の学習状況の把握(アクセス状況を含む)に努めてください。

## 7 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

(1) 学生の学修効果向上のために、課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法を箇条書きで具体的に記載してください。

(2) フィードバックに、特に決まった方法はありません。先生方の授業の内容に合った最適な方法で行ってください。なお、フィードバックは授業時間内に限らず、メールやLCUの機能(小テスト、レポート、授業アンケート機能等)を利用して実施するものも含まれます。

例)：「小テスト終了後に模範解答を配付する」、「試験やレポート等を添削し、返却する」、「授業内で講評・解説の時間を設ける」、「次の授業で課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生の良くできた答案、論文等を紹介する」、「授業終了後に全体的な講評、模範解答をメール配信あるいは印刷配付する」

## 8 使用教材など

- (1) 授業で使用する教科書、その他の使用教材の記載方法については、『シラバス作成マニュアル』をご参照ください。
- (2) **教科書を注文する場合は、必ず「教科書」欄に記載してください。**『その他の使用教材』欄のデータは注文の対象にはなりません。間違いが多いですので特に注意してください。
- (3) 授業アンケートで「教科書を購入したが一度も使わなかった」といった意見が寄せられていますので、ご注意ください。教科書を購入させる場合は、使用方法（授業内、授業の予習・復習での活用）を明確にしておくことが望まれます。

### ❖❖ 教科書注文について ❖❖

注文方法については、以下のとおりです。

#### ①学内ブックセンターに注文する（販売を依頼する）場合

シラバス作成時に使用教材「教科書」欄に必要事項を記載し、発注方法の「学内ブックセンターに注文する」欄に印を付けることで、注文ができます。

学内ブックセンターの連絡先： TEL：099-261-9951 FAX：099-261-0227

e-mail：[ke00@kinokuniya.co.jp](mailto:ke00@kinokuniya.co.jp)

#### ②学内ブックセンターに注文しない場合

シラバス作成時に使用教材「教科書」欄に必要事項を記載し、発注方法の「学内ブックセンターに注文する」印を外した上で、担当者自身で直接書店に注文してください。販売方法についても、担当者自身で書店と打ち合わせしてください。

## 9 到達目標の評価方法

- (1) 設定した到達目標をどのように評価するのか、到達目標ごとに各評価方法の欄に印を付けてください。
- (2) 評価方法にある「期末試験」、「期末レポート」については、実施を予定するどちらか一方に印を付けてください。
- (3) 「期末試験」と「期末レポート」以外に、独自に評価方法を設定する場合、例えば「小テスト」「レスポンスシート」「中間レポート」「授業中の発表及び態度」などの評価方法を、（ ）内に記載してください。**(5項目まで) (1項目15字以内)**
- (4) **「出席」に関しては、評価方法には含まれません。出席の取扱いについては、「10 履修上の留意事項・授業時間外の対応」の項目で詳細に記載してください。**
- (5) 評価割合（%）を必ず記載してください。



## 1 0 履修上の留意事項・授業時間外の対応 (1,000 字以内)

履修に関して学生にあらかじめ伝えておきたい内容を記載してください。

(例)

- (1) 履修の前提となる知識、技能、態度
- (2) 事前に履修しておくべき講義や参考書
- (3) 遅刻や欠席届、途中退出等の取扱い

〈参考〉「授業に対する熱意等の評価は、減算により評価します。(最大 30%)」

- (4) 「9 到達目標の評価方法」の内容に関して、学生へ補足説明があれば記載してください。
- (5) 受講生の質問・意見に対応する方法

例) : LCU の「個別質問」機能の活用や、教員(非常勤講師を含む)のメールアドレスを記載するなど、可能な限り学生が連絡を取りやすい状態にしてください。

- (6) オンライン授業やハイブリッド型授業を実施する場合、あるいは実施する可能性がある場合は、本学の「オンライン授業等の実施に関するガイドライン」をご確認のうえ、次の文章を参考に記載してください。

例) : 原則として対面授業を実施しますが、自然災害(風水害など)の発生などにより、対面授業の実施が困難な場合などに、オンライン授業(あるいはハイブリッド型授業)に切り替えて実施することがあります。

例) : すべての授業をハイブリッド型授業で実施しますが、履修者は原則として半分以上の授業時数を対面で受講してください。

## 1 1 前年度の授業の自己評価 (1,000 字以内)

- (1) 2023(令和5)年度後期及び2024(令和6)年度前期の学期末授業アンケートにおける授業評価を基にした授業改善の取り組み状況を具体的に記載してください。

## 1 2 その他

- (1) シラバス内容と変更がある場合は、学生にその旨伝えてください。
- (2) ナンバリングコード・授業形態は自動的に付与されます。
- (3) 非常勤の先生方におかれましては、授業前後の時間に教室で学生の質問にご対応いただくことにご協力ください。また、授業前後にお時間をいただけない場合は、LCUの「個別質問」機能の活用や、シラバスにメールアドレスを記載するなど学生が連絡を取りやすい状態にしてください。



## アクティブ・ラーニングについて

本学では、従来の講義型（受動的）授業から参加型（能動的）授業への転換を目的として、可能な限り全ての授業の中でアクティブ・ラーニングを取り入れてくださるようにお願いしています。

学生が、グループ・ワーク、フィールドワークなどを取り入れた授業へ積極的に参加することで、教員と学生が一体となって授業を作り上げて行くことをその狙いとしています。

以下の具体例を参考にしながら、15回(通年30回)の授業の中に1回でも取り入れていただき、「2授業のテーマ、授業の概要及び方法」のキーワードに「アクティブ・ラーニング」と記載してください。

### (1) アクティブ・ラーニングの定義 《文部科学省用語集参照》

教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

### (2) 有効なアクティブ・ラーニング授業例

- ①学生参加型授業
- ②共同学習を取り入れた授業
- ③各種の学習形態を取り入れた授業(課題解決学習/課題探求学習/問題解決学習/問題発見学習)

### (3) アクティブ・ラーニングの参考例

- ①ペアワーク（二人一組）
- ②グループワーク（三人以上一組）
- ③フィールドワーク
- ④プレゼンテーション（発表）
- ⑤ディスカッション、ディベート（あるテーマについて賛成・反対に分かれ、議論する）
- ⑥ロールプレイ（ある特定の立場の人になったつもりである問題について考え表現する）
- ⑦ワークシート
- ⑧ライト（LITE：Learning in Teaching 学生同士で聴講した内容を説明・聴講する）
- ⑨SNS（ソーシャルメディアを活用した双方向型）
- ⑩PBL（Problem Based Learning 「問題解決型授業」教員は最初に課題を出す。主に学生同士の質疑応答で授業を進行する。教員の発言は10%以下が原則）
- ⑪TBL（Team Based Learning 時間外に個別学習 → 多肢選択テスト（個人） → グループ討議 → 全体討議）
- ⑫LTD（Learning Through Discussion 予習（個人思考）と話し合い（ミーティング）を中心とした学習）
- ⑬小テスト
- ⑭ミニレポート
- ⑮実習